

学生企画のボランティア活動は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムから助成を受けています。

ボラスステ新聞

2015年度
特別号

二〇一六年
三月三十一日
発行

1146文字で伝えます。

仙台防災未来フォーラムに参加して

二〇一六年、3月12日に国際センターで、仙台防災未来フォーラム2016が開催されました。

TASKIもボラスステ新聞の展示とミニプレゼンテーションを行なってきました。今回、このフォーラムに参加して、「つたえる」「つづける」「つなげる」この三つの「つ」の大切さに改めて気づきました。

今日は、広報に対する思いを綴らせていただきます。

ボラスステ新聞は一年間で、九号ほど発行することができました。なぜ広報活動を始めたのか。「知らない人にTASKIの活動の様子を知ってもらうため」「振り返りのときに使える記録のため」、理由はこの二つでした。どうせ作るなら、みんなで作る

新聞にしたいと思いい、記事は活動に参加したメンバー1〜2人に書いてもらっています。「私も新聞づくりに携わりました！」という人が増えればいいなと思っています。

そんな自己満足に近いところからスタートした新聞づくりでしたが、発行していく度に思うことがありました。それは、「メンバーひとりひとり、考えていることや感じていることが違う」ということです。同じ活動をしていても、住民さんに笑顔で接することができたという人もいれば、なかなか積極的に交流できなかつたと反省点が多かった人もいました。ボランティアの難しさを知ったという人もいます。

他の人の思いや考えを知ったり、反省点を活かして対策を考えたりすることは、今よりも更に良い活動をしていくためのヒントになると思います。情報共有としても役立ててほしいと感じました。

また、フォーラムに参加して、「こういう広報活動をしているとは知らなかった」、「どこに行けば新聞は手に入りますか?」といった声をいただきました。

素直に嬉しかったです。「前までは仮設に足を運んでいたんだけどね、最近は全然行っていない……」という方もいらっしゃいました。地元名取市で活動しているTASKIだからこそ、仮設住宅の様子や状況の変化を身近で感じることが出来ます。だからこそ、新聞を通して多くの方に伝えていく役目があると思います。

ブースでは色んな方とお話をしました。「今の仮設はどのく

展示ブースでは
冊子にした新聞を
お配りしました!



らいの住民さんがいるの?」私はすぐに答えられませんでした。広報として活動の様子を伝えてはきましたが、知らないことも多いなど痛感しました。時間を見つけて、仮設住宅に足を運ぶ機会を増やしたいと思いました。

最後になりましたが、先輩から引継ぎ、一年間続けてきたこのボラスステ新聞を、ぜひこれからも継続してほしいです。記事を書くのが面倒だな、嫌だなと言わず、「俺、書きます!」ぐらいの勢いで、どんどん携わってほしいです。活動の様子や自分の考えや思いを伝え、続ける。そして、ボラスステがある限り、樗のようにつなげていく。そんな新聞になることを願って、広報担当の独りごとを締めさせていただきます。(表現文化学科三年 渋谷佳代)

編集 後記

3月某日。新聞の編集のためPC室に行こうとしたときです。4号館3階に新たに学習スペースできているではありませんか!「なにこれ、すご!」と思わず写真を撮ってしまいました。(笑) 食堂のメニューも変わるとか……? 4月から楽しみですね^^ (表現文化学科三年 渋谷佳代)